



2026年4月28日発行

### 貴重な出会いに感謝して

—第9回 SSH オーストラリア海外研修報告—

- ◇期 日:3月7日(土)~16日(月)
- ◇場 所:オーストラリア ニューサウスウェールズ州  
パートナー校セント・ジョン・ポール・カレッジ  
コフスハーバー各地
- ◇参加者:1学年生徒11名・2学年生徒9名 計20名
- ◇引率者:島田和広先生(英語科)・真野佳余先生(理科)

3月7日、多くの家族や先生方に見送られ、富山駅を出発し新幹線で東京に向かった。いよいよ始まる研修への期待と不安が入り混じる中、午後11時に羽田からオーストラリアへ飛び立った。現地ではシドニーを経由し、空路でコフスハーバーに到着した。ホストファミリーは皆温かく迎えてくれて、緊張も自然とほぐれていった。



パートナー校セント・ジョン・ポール・カレッジへの登校初日の9日は、予め準備していた日本についてのプレゼンテーションを行った後、クイズをしたり、相撲の四股を踏む

練習をしたりと盛り上がった。その後、パディとともに授業に参加した。多くの生徒が話しかけてくれ、交流を楽しむことができた。日本のお土産として持参したお菓子や折り紙を喜んでもらえ、嬉しく感じた。

10日は、土砂崩れによる通行止めの影響で予定していたドリゴ国立公園に行けず、代わりにウールグールガ・クリーク・レインフォレストで、オーストラリアの熱帯多雨林の自然観察を行った。日本と違う植生や生き物を実際に目にし、多くの発見と学びがあった。



11日は、砂浜の生き物の種類や数の調査、サザンクロス大学の水族館見学、ウニの受精卵の観察実習を行った。夜にはマトンバード島を訪れ、富山ではなかなか見ることのできない満天の星空のもと、草陰



を歩くマトンバードを夢中になって探した。

12日は、朝の全校集会で中部ウェーブとマツケンサンバの歌と踊りを披露した。中部ウェーブは現地の生徒



も参加し、楽しみながらウェーブスタイルを真似してくれた。その後、コフスコースト・ワイルドライフ・サンクチュアリを訪れ、保護されたウミガメやペンギンなどを見学した。生き物を守るための環境保全の大切さを改めて実感した。



13日は、日本語の授業に参加し、グループで日本とオーストラリアに関するクイズに取り組んだ。授業参加の

後は、現地での研修成果を発表した。フェアウェルパーティーでは、中部ウェーブとマツケンサンバに加え、ソーラン節を披露した。パディやホストファミリーをはじめ、現地の生徒やその家族と食事を囲み、楽しい時間を過ごした。パディから研修の修了証とコアラのぬいぐるみを受け取り、あっという間だった研修の終わりが近づいていることに寂しさを感じた。

14日は、現地での研修や文化交流の総まとめをした。ホストファミリーとの最後の1日を楽しみ、コフスハーバーでの思い出を締めくくった。



そして迎えた別れの日。コフスハーバー空港で何度も別れの言葉を交わし、ハグや写真撮影をして名残を惜しんだ。もっと一緒にいたいという思いと同時に、パディとホストファミリーへの感謝の気持ちでいっぱいになった。シドニーへと移動し、オーストラリア最大級の広さを誇るタロンガ動物園を訪れた。そして飛行機に搭乗し、羽田空港へ向かった。16日の朝、富山駅に到着し、無事に戻ってくることができ、ほっとした。

この研修を通してさまざまな異文化を体験し、自分の世界が大きく広がった。この貴重な出会いや経験を大切にし、今後の学校生活に活かしていきたい。この研修を支えてくださった全ての方々に感謝したい。

(21H 東 記)

記事の詳細は、本校ホームページをご覧ください

[www.chubu-h.tym.ed.jp](http://www.chubu-h.tym.ed.jp)



# 科学の本質を知り、意見を交わす

—福井県合同課題研究発表会—

- ◇期 日：3月14日(土)
- ◇場 所：AOSSA 福井県民ホール等 (福井市)
- ◇参加者：SS 化学部員6名、SS 生物部員3名
- ◇引 率：浮田直美先生(SS 化学部顧問)

SS 化学・生物部員9名は、ふくいサイエンスフェスタ2025 と福井県合同課題研究発表会に参加した。ふくいサイエンスフェスタ2025 では、「キラル触媒による不斉反応の研究」で2001年にノーベル化学賞を受賞された野依良治先生の講演「私の歩んだ道。君たちは何処へ向かうのか」を聴いた。野依先生は神戸大空襲の経験から「戦争に巻き込まれてはいけない」と話された。その後、自身の研究について、高校生でも理解できるよう、わかりやすく説明して下さった。また、現代の日本や世界が科学技術進歩の恩恵を受けつつ、それにより引き起こされた問題を無視してしまう矛盾内蔵型の社会に対する警鐘を鳴らされた。さらに、日本の文化を大切にすることで多文化社会に対する敬意が生まれること、それぞれの国の文化を大切にすることの重要性を述べられた。そして、科学者としてナンバーワンではなくオンリーワンを目指してほしいと話された。

福井県合同課題研究発表会では、口頭発表の分科会発表でSS 化学・生物部それぞれ1件ずつ発表した。



SS 化学部は福井大学の佐々木隆教授に、SS 生物部は福井県立大学の松井孝憲准教授にご助言を頂いた。また、その後のポスター発表では、SS 化学部が2件、SS 生物部が1件、25分間ずつ発表した。他校の生徒と活発に意見を交わし、他校の先生方や大学教授をはじめとした専門家の方々から研究やポスター作成におけるご助言を頂いた。

講演会や発表会への参加を通して、自分たちの今後の考察が深まり、課題が明瞭になった。また、他校の研究の発表を聞き、自分たちの視野を広げることができたと思う。今回の貴重な経験をさせていただいたことに感謝し、今後の残りの学校生活や部活動を充実したものへとしていきたい。(SS 化学部 岩佐 記)

## 今後の行事予定

- 5月26日(火) 2年SS 探究II 2・3年交流会
- 5月29日(金) 2年SS 発展探究課題研究指導
- 5月30日(土) サイエンスアカデミー中学3年コース①
- 6月1日(月) 2学年SS 講演会  
講師：田村隆治氏 (本校OB)
- 6月13日(土) サイエンスアカデミー中学3年コース②
- 7月11日(土) サイエンスアカデミー中学3年コース③
- 7月20日(月)～21日(火)・23日(木)～24日(金)  
立山自然観察実習①・②
- 8月3日(月)～5日(水) 東京大学研究室実習
- 8月4日(火)～6日(木) SSH 生徒研究発表会
- 8月5日(水)～7日(金) 富山大学薬学実習

# Project Tangible に参加して

- ◇日 時：3月20日(金)～22日(日)
- ◇場 所：武蔵野美術大学市谷キャンパス(東京都新宿区)
- ◇参加者：2年普通科生徒4名
- ◇引 率：丹保陽登先生(本校理科)

2年 SS 探究II でスマホの利用に関して探究している私たちは、武蔵野美術大学がデザインの力で高校生の探究活動を支援するプロジェクトのタンジブルキャンプに参加した。タンジブルとは英語の tangible から来た言葉で、タンジブル化は、実感できる形にすることを言う。

1日目はタンジブルについて学び、様々なワークショップを体験した。懇親会では他の高校生と交流を深めた。2日目は東京・ニューヨーク・ロサンゼルス



を拠点に活動する日本発クリエイティブ結社である CEKAI/世界株式会社のワークショップに参加した。「同世代が推せる作品・展示を考えよう！」という題目で、グループに与えられたテーマに関する展示を考え、グループでテーマの推しポイントを出し合っ



て、「タンジブル化」を学んだ。また、配布されたシートを用いて、私たちの探究活動を整理した。その中で、私たちが本当にしたい探究活動は何かを明確化できた。3日目には2日間で学んだことをまとめ、自分たちの探究活動をタンジブル

化した後に、発表会を行った。発表会には武蔵野美術大学の教授の方々も参加され、講評していただいた。3日間で得た経験をもとに、7月に行われるタンジブルメンタリングでより良いものを展示できるよう、これからも探究活動を続けていきたい。

(令和7年度 SS 探究II 1204班 記)

## 探究活動開始！ —オリエンテーション開催—

- ◇期 日：4月10日(金) 5時限 2年探究科学科 SS 発展探究  
4月15日(水) 6時限 2年普通科 SS 探究II  
4月16日(木) 6時限 探究科学科 1年 SS 基幹探究
- ◇場 所：本校至誠ホール
- ◇参加者：1・2年探究科学科生徒、2年普通科生徒  
出講の先生方

各科の探究活動のオリエンテーションを開催した。生徒はSSH 事業の目指すものや、探究活動の意義、今後の活動やその評価について説明を受けた。探究活動を支援する先生方の紹介や学年主任の



先生からの激励もあった。中でも2年普通科 SS 探究II のオリエンテーションでは、生徒はシラバスに示された23の研究テーマから探究したいテーマを熱心に検討していた。

(探究教育部 記)